



木村 直 「この松林は誰のためにあるのだろうか」より〈国立療養所松丘保養園 東側 MH E-08〉(2023年)



伯龍 「ご飯茶碗」(2001年)

「ダイアログ」— 松丘保養園と出会う —

会期 | 2023年12月7日(木) - 2024年1月29日(月)

会場 | 弘前大学資料館 〒036-8560 青森県弘前市文京町一番地 (弘前大学文京町地区キャンパス内)

時間 | 10:00 - 16:00 (入館は15:30まで) 休館日 | 日曜・祝日・休日・年末年始 (12月28日 - 1月4日)

※都合により開館時間の変更、臨時閉館がございます。

出品作家

木村 直 (アーティスト・写真家)

成瀬 豊 (アーティスト・画家)

伯龍 (アーティスト・陶芸家)

廣瀬 俊介 (環境デザイナー)

テキスト執筆者

澤田 大介 (学芸員)

白石 壮一郎 (文化人類学)

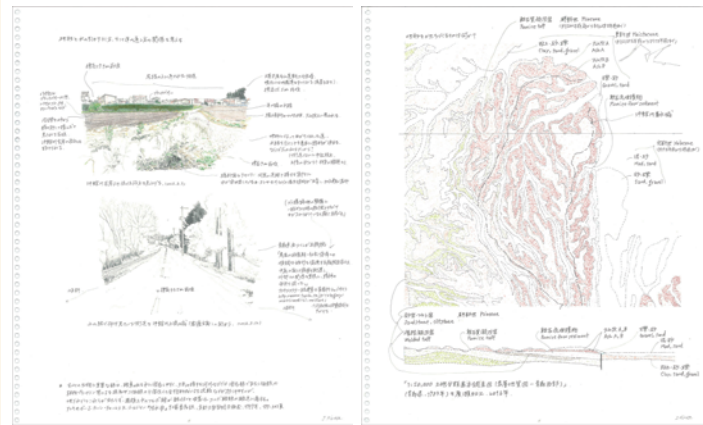
田原 範子 (社会学)

主催 | 弘前大学資料館・弘前大学人文社会科学部地域未来創生センタープロジェクト 「地域のなかの松丘保養園の再発見：生活誌・自然景観・身体験を通して」

協力 | 国立療養所松丘保養園・松丘保養園入所者自治会・一般財団法人松丘保養園松校友会・ふきのとうの会

後援 | JSPS科研費「ハンセン病療養所における生と再生—個人情報保護とアーカイブ化の可能性」(JP20K20737)

青森市石江に国立療養所松丘保養園がある。ハンセン病患者・回復者が各地の国立ハンセン病療養所に収容されて暮らすようになって、すでに百年を超える時が経った。本展のねらいは、松丘保養園と出会い、そこからなにかを感じる・考える機会を、園を離れた場にも設けることだ。国立ハンセン病資料館（東京都東村山市）は、公衆衛生の歴史と隔離政策の成立との関係、入所者の人権問題と国賠判決までの日本のハンセン病問題の歴史全般にかかわる常設展示をもつ。他方、国内13箇所の国立ハンセン病療養所には、個別の生活史（生活誌）として、各療養所自治会機関誌などの資料とともに、入所者の作品が残されている。本展は、松丘保養園で暮らす／暮らした人々の作品、そして園や入所者と関わりをもって考え始めた人による、園の日常と地域の自然、社会の関係に意識を向けて制作された作品や、書かれた学術的テキストをつないだ対話の場だ。この場に身をおいて、あなたもまたあらたな対話をはじめの契機を得てほしい。



(上) 成瀬 豊「点字用紙へのスケッチ」(制作年不明) 一般財団法人松丘保養園松桜会所蔵

(下) 廣瀬 俊介「A_地形と水の引き下ろし方、そして道の通し方の関係を考える」、「B_地形をかたちづくるものは何か?」(2016)

出品作家プロフィール (名前順)

木村 直 Choku Kimura (1998年、神奈川県生まれ)

アーティスト・写真家

東京藝術大学修士課程在籍。「生活の場としてのハンセン病療養所の記録と継承」と「見ない暴力／見る暴力」を主軸に、写真・映像・インスタレーションを用いて制作活動を行う。母が大学生の頃、国立療養所沖繩愛楽園（ハンセン病療養所）に行ったことがきっかけで、2歳ごろから両親に連れられて国立療養所沖繩愛楽園に訪れる。2018年から国立療養所松丘保養園へ訪れ、現在は『ぼつけ通信』（ふきのとうの会）の編集長もやっている。

成瀬 豊 Yutaka Naruse (1922年 - 2013年没)

アーティスト・画家

福岡県出身。1952年に国立療養所菊池恵楓園（熊本県合志市）に入所し、入所者の絵画グループ「金陽会」の創設に関わる。1957年に国立療養所松丘保養園に転入所する。油絵の具、墨、ペン等で絵画やドローイングを制作する。1975年「叫び」（絵画）が貞明皇后のお徳をしのぶ療養所展示会において（財）藤楓協会総裁高松宮宣仁親王より銀賞を受賞。主な展覧会に2007年「ATTITUDE 2007 人間の家ー真に歓喜に値するもの」（熊本現代美術館）がある。

伯龍 Hakuryu (1943年、秋田県生まれ)

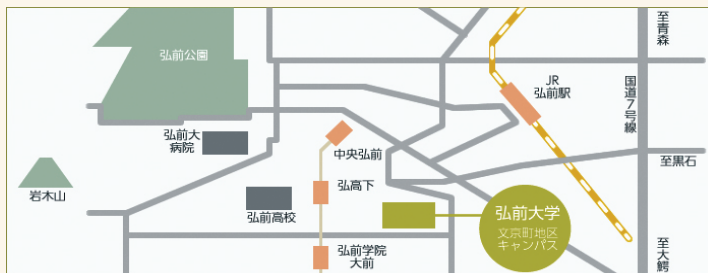
アーティスト・陶芸家

秋田県仙北郡出身。1991年にハンセン病療養所に強制再入所させられたことを機に95年以降、陶芸家として活動を始める。ハンセン病による後遺症のために、動かしづらい手でも使える生活のための陶芸から、縄文を思わせる文様を凝らした陶芸作品を制作する。また他にも松丘保養園内に風車の設置や自身のアトリエの建築等も行う。

廣瀬 俊介 Shunsuke Hirose (1967年、千葉県生まれ)

環境デザイナー

2003年4月から2014年3月まで東北芸術工科大学、同大学大学院准教授。日本地理学会、日本景観生態学会に所属して風土形成の一環となる環境デザインを研究し、東北地方、岐阜県飛騨地域を中心に実践する。アートに関連した業績には、2014 - 2015年「土祭2015|益子の風土・風景を読み解くプロジェクト」（栃木県益子町）、2016 - 2017年「青森 EARTH アウトリーチ 立ち上がる風景」（青森県立美術館）がある。



交通アクセス

- 「大鰐弘前 IC」または「黒石 IC」から約30分 JR 弘前駅から ○徒歩の場合 ▶ 約20分 ○タクシーを利用する場合 ▶ 約5分
- バスを利用する場合 ▶ 約15分駅前【3番のりば】から「小栗山・狼森線」又は「学園町線」に乗車し、【弘前大学前】下車。

※大学構内へは正門よりご入場ください。 ※第一体育館側正面玄関よりご入館ください。 ※駐車スペースは、正門守衛室の指示に従ってください。